

工業っ子ミニ

落語って楽しい!

R3芸術鑑賞会号

第56号

2021 10 20

新聞部速報

編集

長崎工業新聞部

芸術鑑賞会号



▶ 落語のコツは表現力

**選んだ道を
信じて進んで**
笑福亭へ瓶さん

一、二年生には「落

十月十三日に本校体育館で行われた芸術鑑賞会。生徒が在学期間中にさまざまな芸術活動に触れるように三年に一回開催され、今回は落語の鑑賞でした。

出演された笑福亭へ瓶さん、三遊亭美るくさん、三増れ紋さん、稲葉千秋社中さんに今の職業についてきつかけや長工生の印象などをインタビューしました。

「一、二年生には「落語を見たのがきつかけ。それから落語会に行くようになり、大学二年生の春に鶴瓶師匠に入門した。長工生は大人しく、偏差値が高そうでもしやすかった。工業高校を選んでいいることは将来の道が見えていいると思うので、自分の選んだ道を信じて進んでほしい。『あなたたちがいるからこそ私たち芸人は活動できます』と関西の人らしくノリよく話してくれました。」



◀ 出囃子は人それぞれ

**行き詰ったら
落語を聞いて**
三遊亭美るくさん

学年で話を変えて公演された美るくさん。「師匠を見て素敵だと思ったのがきつかけ。いつも誰にでも楽しんでもらえるようにしているが今回の公演はすぐ力が入った。楽しんでもらえたならよかった。長工生はお上品。人生で行き詰ったことがあったら、落語を聞いてほしい。そうすれば救われるかもしれない」と公演を終えほっとした様子で答えてくれました。

**学校生活で
いい思い出を**
三増れ紋さん

江戸曲独楽を披露して

いい体験に
三年生落語体験

三年生の部では、生徒が舞台上がっての落語



▲幽霊になりきる

体験もありました。舞台上上がった生徒(インタビュー。木村想さん(13)は「不意打ちできて驚いた。死ぬほど恥ずかしかったけど、いい経験ができた」と瀧大範さん(P3)は「『青い光がポツ』というところが、やってみて楽しかった」と答えてくれ、楽しい体験だったよかったです。

**マナーは
一生の財産**
稲葉千秋さん

くださったれ紋さん。「もともと女優志望だったが、漫才の先生が亡くなり、相方もやめてしまつて、江戸曲独楽師になった。学年によって違つたが、みんな元気だった。学校生活でいい思い出を作つてほしい」と明るく話してくれました。

後編集
落語、聞いていておもしろかったですね。伝統芸能に触れるいい機会になったと思います。歌舞伎にも興味あります。

出囃子などの演奏をさされていた千秋さん。「お笑いが好きでよく落語などを見に行っていた。そこで流れてくる三味線の